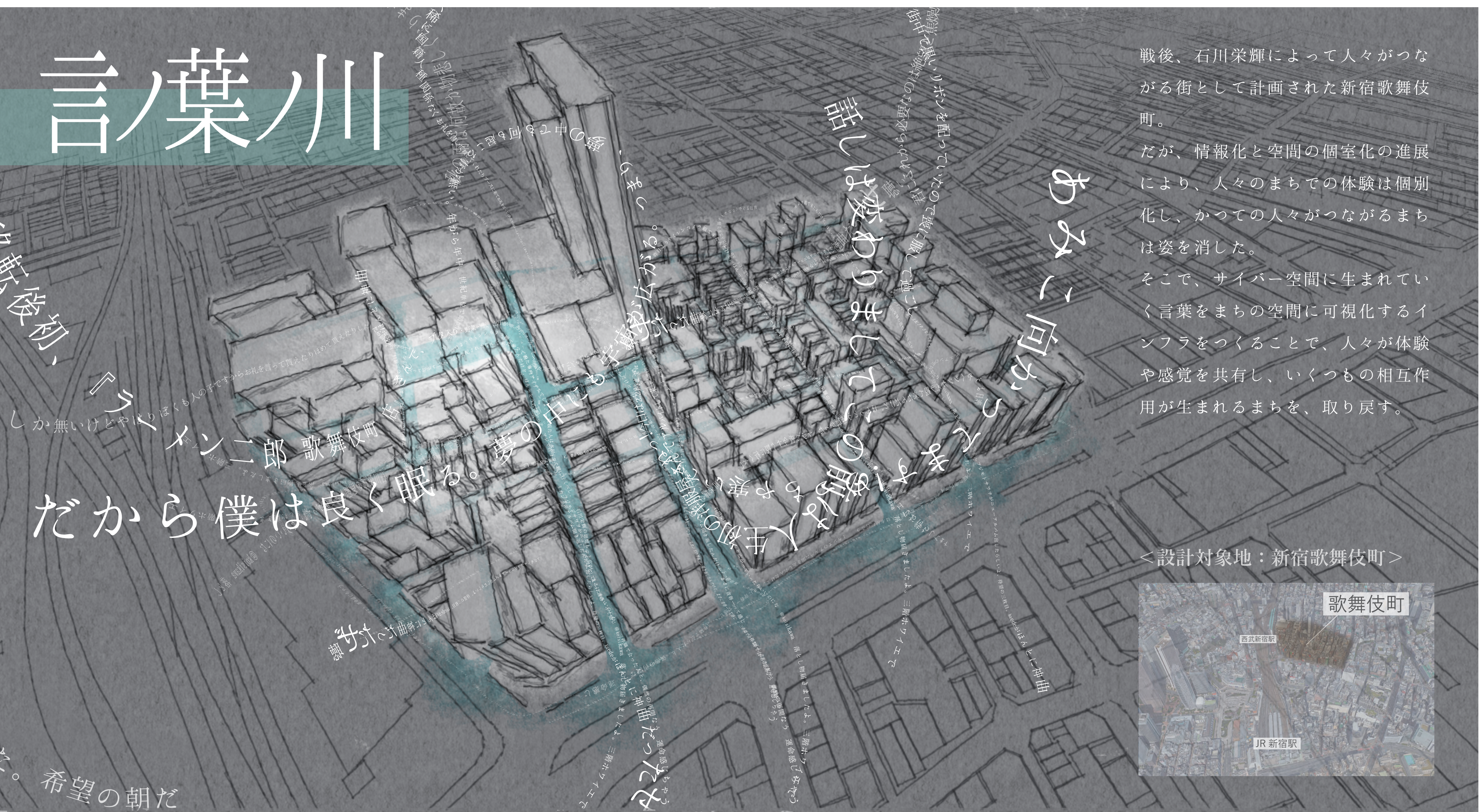
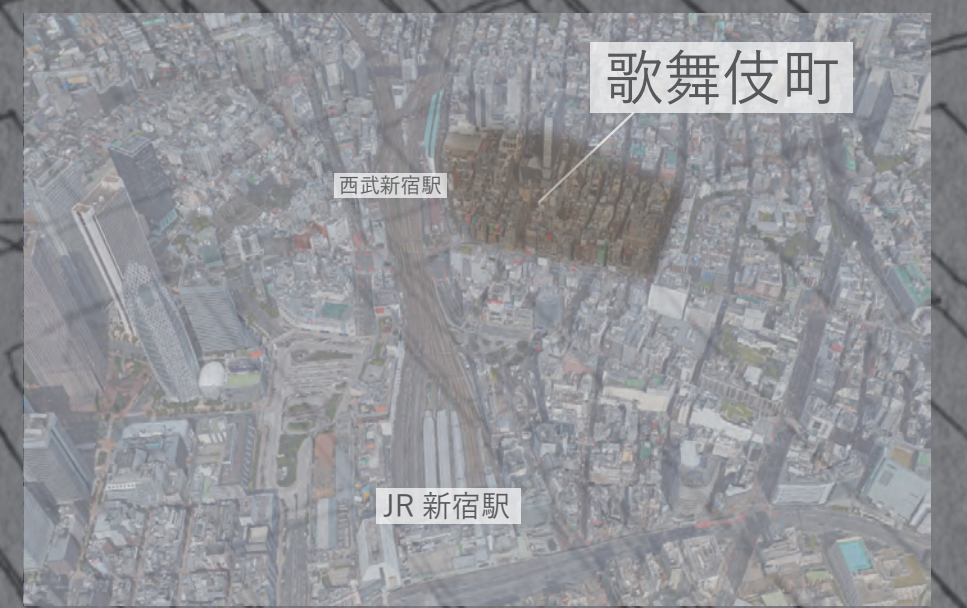


言葉川



戦後、石川栄輝によって人々がつながる街として計画された新宿歌舞伎町。
 だが、情報化と空間の個室化の進展により、人々のまちでの体験は個別化し、かつての人々がつながるまちは姿を消した。
 そこで、サイバー空間に生まれていく言葉をまちの空間に可視化するインフラをつくることで、人々が体験や感覚を共有し、いくつもの相互作用が生まれるまちを、取り戻す。

<設計対象地：新宿歌舞伎町>



背景

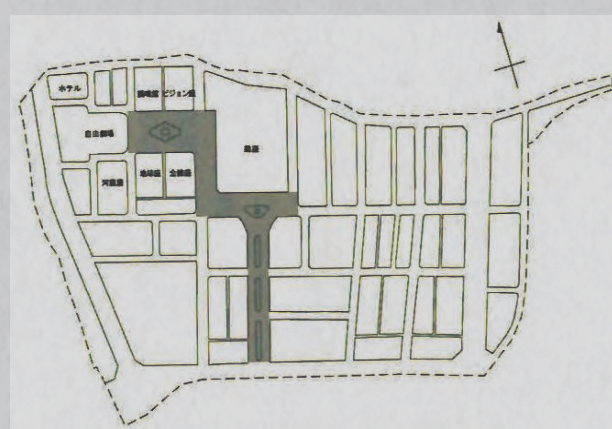
○江戸以前：地形の形成

かつて歌舞伎町を流れていた「蟹川」によって、北に向かった下り勾配が形成された。



○戦後：石川栄輝の戦災復興計画

戦後の焼け野原に、復興繁華街「歌舞伎町」が計画された。都市計画家・石川栄輝は「心と心相ふれえる」をキーワードに据え、勾配を活かして奥に広場を設け、劇場を集積させるとともに、ボウリング場や映画館といった娯楽施設の配置によって、人々が「つながる」まちとして歌舞伎町を特徴づけた。



○近年：娯楽体験のプライベート化

だが、街のシンボルであったコマ劇場は閉館し、映画館は14館から4館へと減少、カラオケや漫画喫茶、個室居酒屋などの「個室」が増加した。人々の賑わいも広場から消えていった。



○現在：SNSの台頭

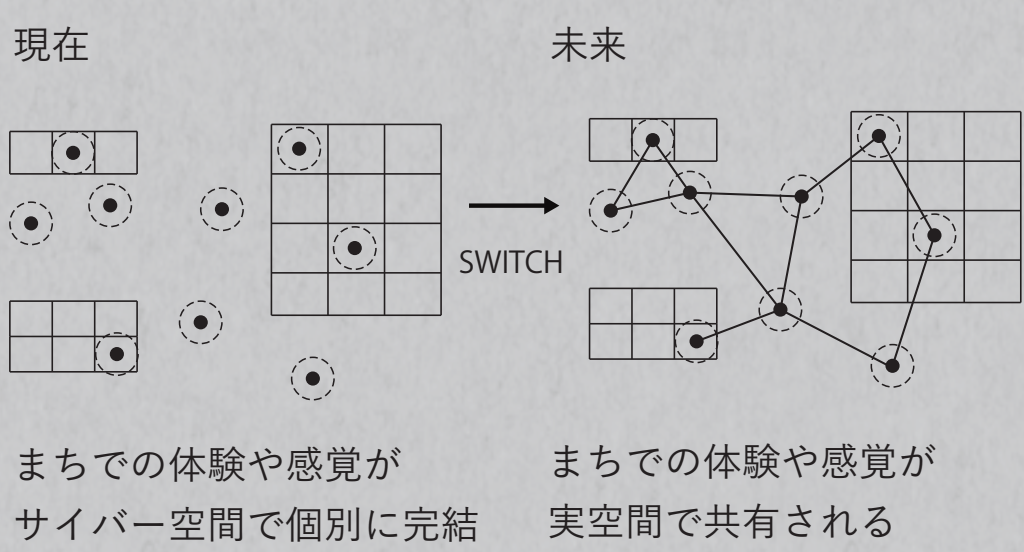
娯楽体験を共有するツールとしてSNSが出現し、人々の体験はSNSの「身内」のみで共有される。歌舞伎町は石川栄輝の思い描いたまちから遠ざかっている。

	戦後	現在
娯楽体験	集团的	個人的
体験の共有	まちの実空間	SNSのサイバー空間

→ならば、サイバー空間を逆手に取り、かつての「つながる」まちを取り戻せないだろうか？

着想

『サイバー空間を実空間に投影することで人々が体験や感覚を共有できるまち』

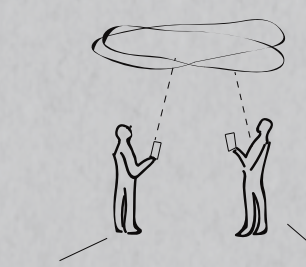


発想

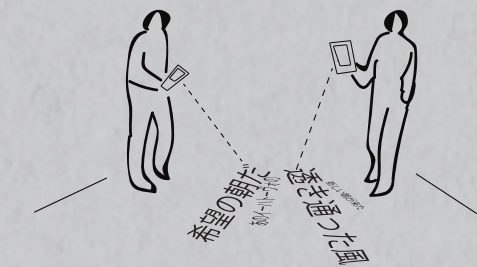
～言葉の流れる「川」～

サイバー空間上に投稿される言葉をまちの道と広場に可視化するインフラ

人々の言葉はサイバー空間に完結



SWITCH



歌舞伎町内で「#歌舞伎町」のハッシュタグと共にSNSで発信

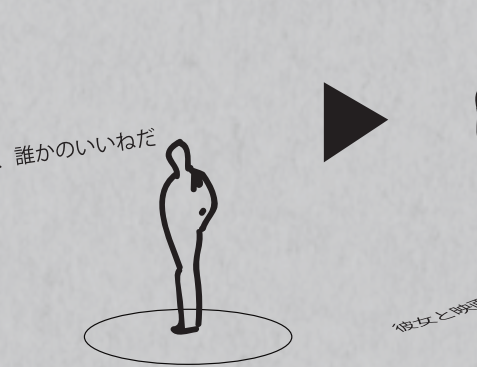
道に投稿した文字が流れる

文字は街を流れ広場へと向かう

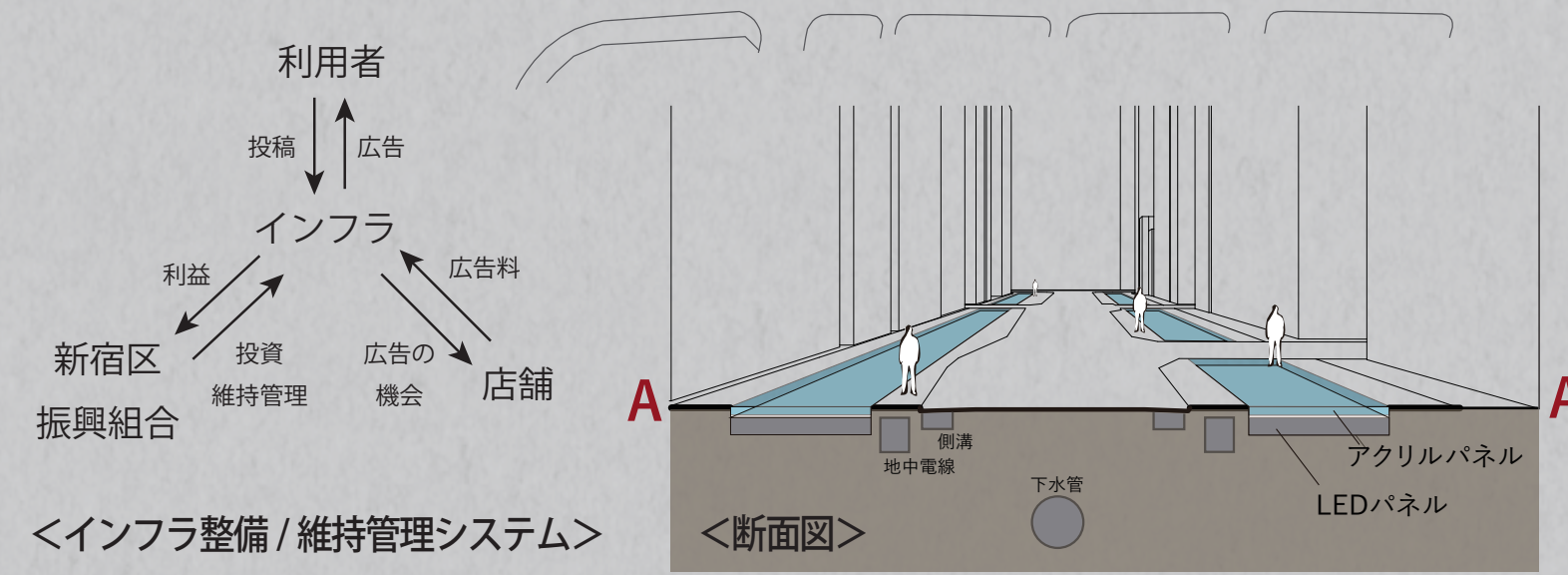
誰かの文字を足で二度タップすると「いいね」、二人の足下が光る

広場に流れ着いた言葉は集い離れやがて消えていく

あ、映画、元気出た #歌舞伎町

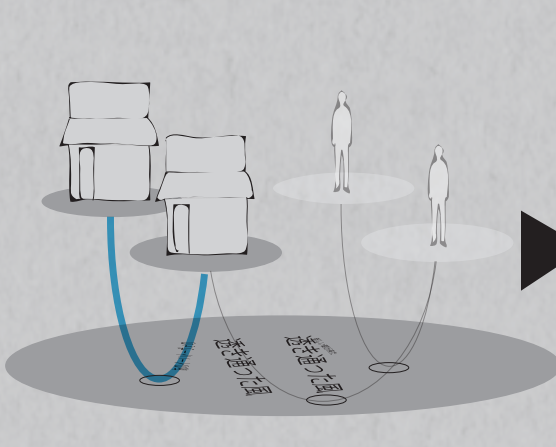
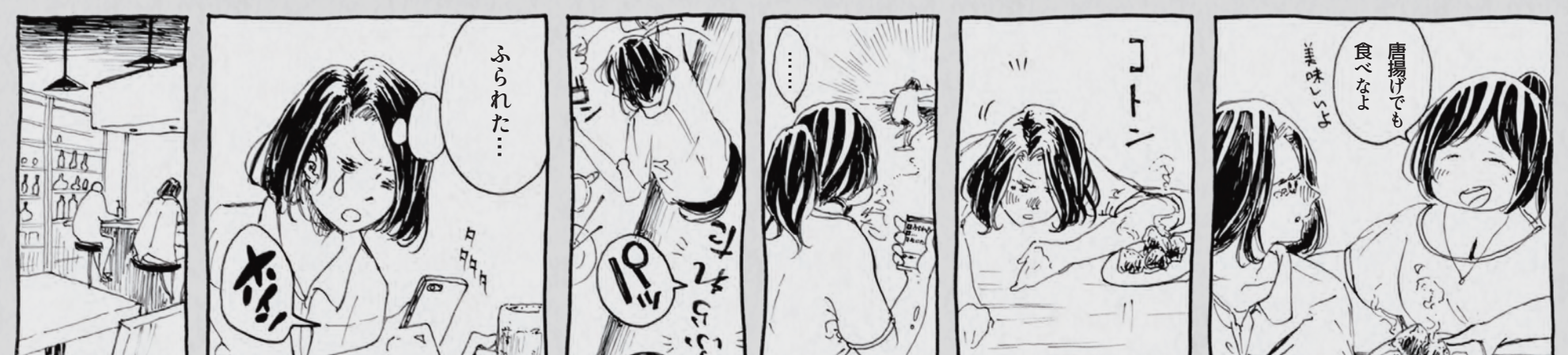
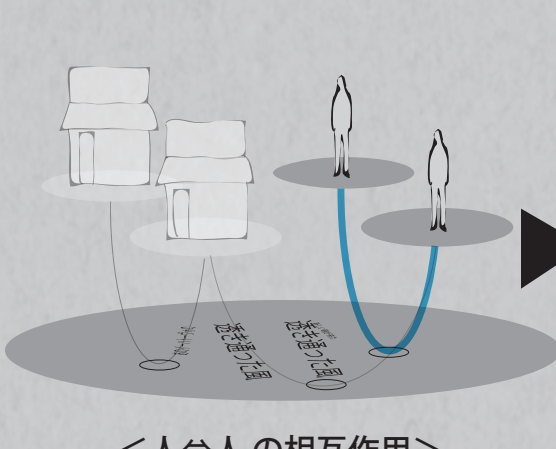
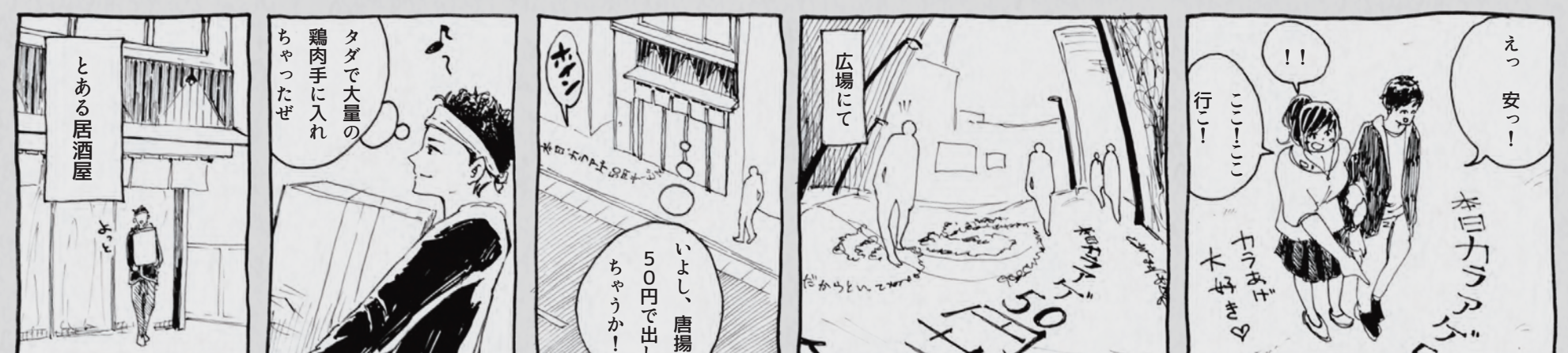
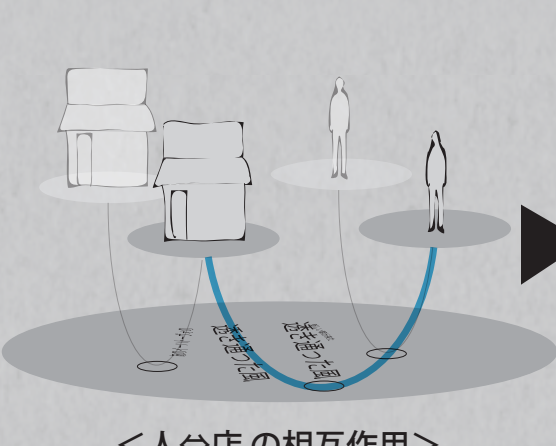


設計



結果

このインフラは三つの相互作用を媒介する。以下にそれらの例を示す。



<シーケンス・パース>